

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立芙蓉小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

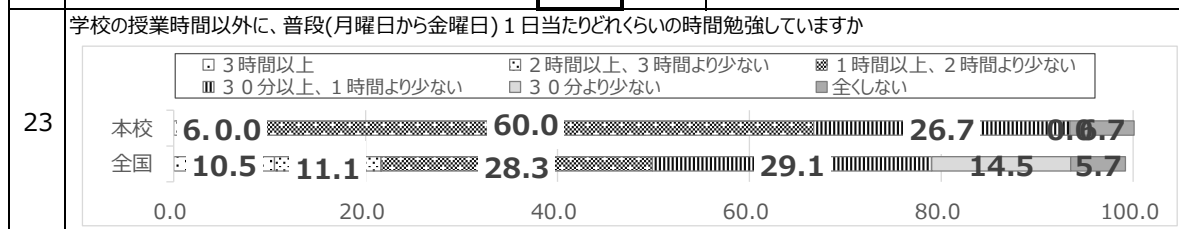
《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	80.0	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	86.7	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	86.7	91.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	73.3	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	86.7	78.4



本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童86.7%は、全国平均より高い結果でした。

●「分からないことやよくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」と回答した児童73.3%は、全国平均より低い結果でした。

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	80.0	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	66.6	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	73.3	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	80.0	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童は86.6%でした。

●自己肯定感や幸福感、向社会性に関して肯定的な回答をした児童は、全国平均より低い結果でした。

●「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童66.6%は、全国平均より低い結果でした。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	86.6	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	73.3	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

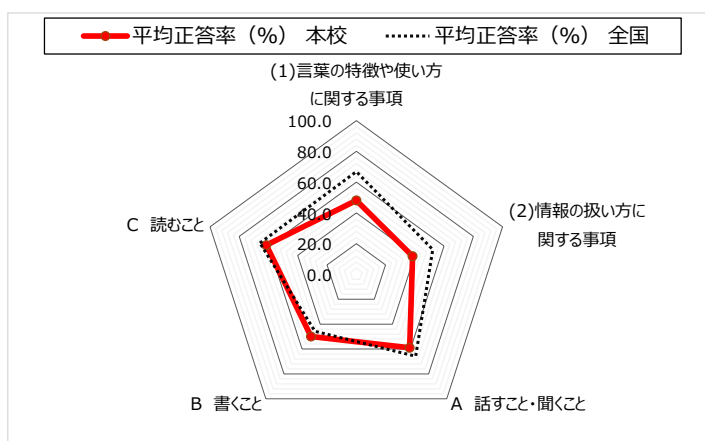
- 道徳教育や特別活動、体験活動、読書活動など学校教育活動全体を通じて児童の豊かな心を育む取り組みに努めます。間違えても「大丈夫、次がんばろう」と周囲が受け止めることで安心感を育みます。
- 「人の役に立つ人間になりたい」という児童の思いを大切にし、将来の夢や目標が持てるように世の中にどんな仕事があるのか調べる学習を取り入れます。

【ご家庭では】

- 身の回りの簡単な手伝いを通して少しずつ社会性を育んでください。小さな行動でも「ありがとう、助かったよ」というように言葉にして伝えることで人の役に立つ心地よさを知ることができます。
- 「できたこと」を1日1つ見つけて振り返ることで、できた経験を積み重ね、自己肯定感を高めましょう。
- 「好き」を認め、何気ない興味や関心を否定せず、そのまま受け止めることで子どもが視野を広げるサポートを行いましょう。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	48.1	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	38.5	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	59.0	65.8
	B 書くこと	50.0	45.7
	C 読むこと	61.5	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	50.4	61.9
短答式	46.2	62.6
記述式	61.5	54.9

結果 ※○ (強み)、●課題

○記述式の正答率は、全国平均より高い結果でした。資料を活用したり引用したりして、自分の考えが伝わるように表現や書き表し方を工夫することができています。

●知識及び技能は、全国平均より低い結果でした。比喻や反復などの表現の工夫に気付くことや学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1二 (1)	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	69.2	60.2
2四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	53.8	33.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1二 (3)	比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる	38.5	65.2
2三ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	61.5	80.0

調査結果を受けて

【学校では】

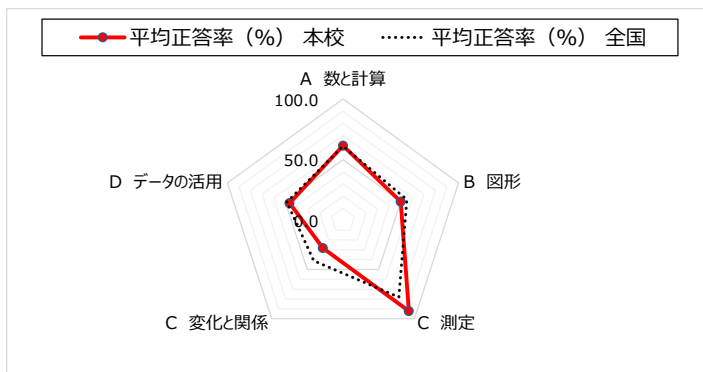
- 学年別漢字配当表に示されている漢字や言葉の習得ができるように、漢字の読み書き、慣用句やことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書やタブレットを活用して語彙力を増やすようにします。
- 比喻や反復などの表現に気付かせ、活用できるような授業場面を設定し、表現力を向上させていきます。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 親子の会話を大切に、メディアから離れて直接のコミュニケーションをしましょう。楽しい会話の中で、いろいろな表現や用語にふれて語彙力を高めたり、自分の考えや気持ちを言語化したりできます。単語ではなく、文で会話することを意識するとさらに語彙力が高まります。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	61.5	61.1
B 図形	50.0	55.3
C 測定	92.3	78.1
C 変化と関係	28.2	41.1
D データの活用	46.2	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	47.7	56.0
短答式	53.8	59.7
記述式	56.4	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎記述式の問題は、全国平均より高い結果でした。理由を数や言葉を使って書くことができています。

◎C測定は、全国平均より高い結果でした。示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができています。

●C変化と関係は、全国平均より低い結果でした。基準量、比較量、割合の関係を正しく理解することに課題があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 (3)	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	53.8	44.0
4 (2)	示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる	92.3	78.1

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	53.8	72.7
2 (4)	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	15.4	34.2

調査結果を受けて

【学校では】

- 数量の関係を捉えることができるようにするために、児童自身が項目を設定し、図や表に整理する活動を設定します。
- 単元のまとまりの中で大切な用語を意識し、根拠を明らかにして説明し合う活動を設定します。
- 既習事項の内容を定期的に振り返ることができるように、掲示物の工夫やタブレットを積極的に使っていきます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルや宿題のプリント、テストの様子を見て、励ましや賞賛の声を積極的にかけてください。
- 身の回りには、算数に関する学びの機会がたくさんあります。(おかしを分ける→わり算、料理→重さ、お風呂→水のかさ、買い物→たし算・ひき算・暗算など) 算数を好きになるには、「習ったことが生活で使えて便利・おもしろい」と思わせることが大事ですので、生活の中の算数に意識を向かせてみてください。